

## 特集

## 誰もが自分らしく輝くまちづくり

## 郷土愛あふれる藤沢をめざして

2026年度の市政運営に関する市の基本的な考え方と実施予定の主な事業をお知らせします。

## 問い合わせ

企画政策課 ☎内線2175、FAX (50) 8436

## 市政運営の方針について

2月12日の市議会本会議で、鈴木市長は2026年度の市政運営の方針について説明しました。

この中で、昨今の労働力不足の深刻化や長引く物価高騰、頻発する自然災害などの課題に正面から向き合い、安全・安心の基盤を守っていくとともに、高齢化、情報化、国際化が進む時代の転換期を都市の魅力や豊かさをも高める好機として生かし、私たちが目指すべき確かな未来を切り拓き、成熟した都市として、潤いに満ちた藤沢の姿の実現につなげていくとの決意を示しました。

また、2026年度を次なる時代を方向づける重要な一年と位置づけ、デジタル技術の活用や都市基盤整備など暮らしやすさを高める積極的な投資を進め、誰もが自分らしく輝けるウェルビーイングな地域社会の実現に向けて取り組むこととしています。

※詳細は市のHPの企画政策課のページへ



## 5つのまちづくりテーマに基づく2026年度の重点的な取り組みを紹介します

## 1 安全で安心なまちをつくる

☆防災備蓄倉庫内の資機材の最適配置などを継続

☆国の新たな物資支援システムを活用し、災害時の迅速かつ円滑な物資供給を推進

☆地域防災計画について、国や県による被害想定や防災施策の見直しを踏まえ、分かりやすさと実効性を高めた計画へ抜本的な見直しを実施

☆木造住宅耐震改修補助限度額の引き上げを実施

☆鶴沼・片瀬地区における2027年度からの救急隊の24時間常駐に向け、救急隊員の増員や救急車および施設の整備を実施

☆大規模災害発生時などにおける迅速な情報収集のため、赤外線カメラや救命具などの投下装置を搭載したドローンを整備

☆道路陥没対策として、「空洞ポテンシャルマップ」を活用し、効果的・効率的な取り組みを継続

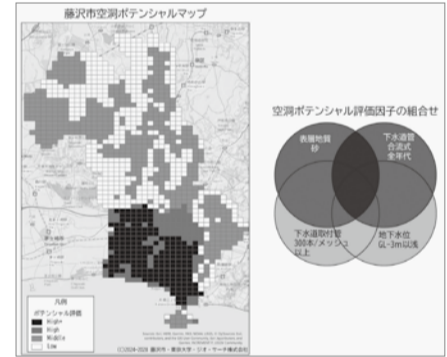
☆全国特別重点調査に基づく下水道管の工事を着実に推進するとともに下水道施設および管路の耐震化を実施



防災備蓄の資機材の最適配置



ドローンのイメージ



空洞ポテンシャルマップ

## 2 誰もが、豊かに生活し、支えあう社会をつくる

☆介護人材の育成・確保のため入門的研修の実施や初任者研修への助成、多様な人材の参入を促進

☆介護事業所の業務効率化のため、既存ICT機器などの最適化を支援

☆藤沢市民センターに福祉関係の申請・相談ができる地区福祉窓口を設置

☆地域生活課題や支援ニーズの複合化・複雑化に対応するため、各市民センターに福祉職の配置を推進

☆「藤沢市ケアラー支援推進計画」に基づき多様な主体と連携した取り組みを推進

☆妊婦に対する「RSウイルス母子免疫ワクチン」の定期接種を新たに実施

☆福祉総合相談支援センターにおいて終活相談および緊急連絡先などを登録できる情報登録事業を実施

## 3 笑顔と元気あふれる子どもたちを育てる

☆「こどもまんなか社会」の実現に向け、子どもたちの「やってみよう」をかたちにする「藤沢市子どもファンド事業」を試行

☆不登校の児童生徒がいる家庭に対し、学校以外の居場所や学びの場を利用できるよう経済的負担を軽減するための支援を実施

☆乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)を市立保育所1施設、法人立保育所など9施設において実施

☆妊婦健康診査の費用助成を10万円に引き上げ

☆多胎児および慢性疾患児などの出産後1年未満の産婦がいる世帯への家事支援や育児支援として、産後ヘルパー事業を実施

☆サマースクール事業について、新たに湘南台地区で実施

☆鶴沼・高谷・石川の3小学校における2027年4月の特別支援学級開設に向けた準備を推進

☆市立小学校および白浜養護学校小学部の給食費を無償化

☆校務のロケーションフリー化や学校ICT機器を円滑に利用できる環境を実現するため、次期学校ICT基盤の整備を実施

☆子どもたちの個別最適な学びの充実や情報活用能力の育成などを目的に、市立中学校においてデジタルドリルを導入